

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

4 番、立憲民主党 鈴木美香です。今日は 4 つ質問させていただきたいと思います。

では、まず早速 1 つ目、子ども食堂に支援をお願いします。

小豆島町と土庄町の 2 拠点で活動している子ども食堂は、ご存じでしょうか。小豆島町は、昨年 4 月にその団体に補助金を出しています。先進国であるわが国に、食べることの困難な子どもたちの存在自体が疑問で、国の子ども政策の失敗と思いますが、そうは言っても今、目前に困難な子どもたちがいるのは現実です。育ち盛りの子どもたちの栄養バランスを考えた食事は、脳にも体にも何より重要だと思います。もちろん、家庭が基本ですが、さまざまな事情がある場合、社会で育てるといった考え方もまたしかりではないでしょうか。子ども食堂を運営している団体は、資金にかなり苦労しているとも伺います。そこで、行政で支援すべきところを、民間がフォローしているのであれば、できるだけの支援をお願いしたいと思います。

町長、担当課長、見解をお伺いします。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

鈴木議員がおっしゃっている子ども食堂につきましては、存じ上げております。その団体の代表者の方とは、昨年の夏ごろから協議をしております。この団体は、休眠預金等活用事業を利用して運営しております。この事業は、国、地方公共団体が、対応困難な社会の諸課題の解決を図る目的で、日本民間公益活動連携機構が助成するものでありますが、この助成が終了するということでご相談を受けております。

町といたしましては、何らかの支援を検討する前提といたしまして、団体の運営方針、事業計画、財務諸表等の提出をお願いしておりますが、まだ提出されておられません。支援をするにあたっては、事業の継続性や確実性、あるいは安全性などが見込めるかどうか確認する必要があるかと思いますので、機会がございましたら、鈴木議員から、その旨をお伝えいただきたいと思いますようお願い申し上げます。

今後とも、団体と協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

すいません。町長も、ご見解をお伺いしたいんですが、

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

私といたしましては、先ほど担当課長が申し述べたとおり、事業についてはたいへん、本来町がやるべきところを民間がやってくれているところについては、感謝しております。ただ、しかしですね、今、答弁したとおり事業の目的、それから財務手法等書類を提出していただきたいとお願いしているにもかかわらず、毎回ですね、提出いただけない。行政といたしましては、しっかりとした目的、事業内容等を伝えていかなければ支援することはできませんので、そのあたりをご理解いただきたいと思います。

○議長（高橋正博君）

4 番、鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

石床課長の前向きなご検討だと私は認識しました。一度、担当課長、子ども食堂に、中央公民館の真裏ですので、金曜日の 12 時から、毎週子ども食堂をやっていますので、お年寄り、障害者、ちょっと困難を抱えている子どもさんがおられます。そんなに広いところではございませんので、ぜひ 1 度、町長も見に行っていたきたいと思うんですが、それはどうでしょうか。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

ここにつきましては、私どもも見学に行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

見学には行かせていただきます。ただ、しかし、先ほど述べましたとおり支援するにあたっては、それなりの事業目的等をこちらとして把握しなければいけないので、そのあたりも鈴木議員さんの方からお伝えください。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

前向きなご検討ととらまえて、ありがたいと思っています。ただ、現実は今

困ってる方がおられて、現実に関今助けているということをお認識していただきたいかなと思っけています。そもそも、この名称は子ども食堂ですが、ひきこもりの人や 1 人暮らしの高齢者、障害のある方など、さまざまな人の居場所としても機能しています。その方たちが、お弁当配りなどをお手伝いして、社会参加もしていただけてます。土庄町は、ひきこもりを調査していないようですが、少なからず見受けられ、放置すると 8050 問題となり、深刻になりうります。しんどい思いをしている人たちを社会につなげる役割を果たしている貴重な拠点ですので、前向きなご返答いただきましたが、そのあたりもご認識していただきたいなと思っけています。

では、2 点目、高齢 1 人暮らしの緊急時の対応策は。

土庄町でも、高齢の 1 人暮らし、またはご夫婦の世帯が増えています。町の支援が届いている世帯は安心ですが、そうではない高齢世帯についての緊急連絡先の把握はどうなっていますか。町とつながっている人には、連絡先を記入し、冷蔵庫などに張るなどの要請をしているとお伺いしますが、それ以外の高齢者だけではなく、1 人暮らしの方たちにも、何らかの緊急連絡先など、重要事項を記載したものを備える仕組みが必要ではないかと思っけています。全国的に小豆島町、綾川町、そのほかの自治体で、緊急時に連絡先や重要事項を記入し、必要なキットに納め、冷蔵庫に保管する仕組みがあると伺います。とても良い案だと思っけていますが、土庄町もそのようなことはできないだろうか、見解をお伺いします。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長、石床勝則君。

お答えの前に、なお、事前に執行部から説明に使用する物品の持ち込みの申し出がありましたので、確認の上、持ち込みを許可しております。

答弁の方、よろしくお願ひします

○健康福祉課長（石床勝則君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

鈴木議員からご指摘がありました、高齢者の緊急の場合に備える仕組みにつきましては、すでに土庄町におきまして、やすらぎ手帳というものを配布して取り組んでおります。こちらに現物を持っけてきておりますが、こういったものになります。こちらの方の、この磁石のステッカーを冷蔵庫に貼っていただきますと、やすらぎ手帳があるという目印になります。また、手帳の方には、緊急連絡先、かかりつけ医、緊急時の対応情報、持病や既往症などを記載し、健康保険証、診察券、薬剤情報提供書などの写しとともに、所定の袋に収め、冷蔵庫内に、こういうふうなペットボトルなどに入れていただきまして、保管していただくというかたちになっております。平成 28 年度からは、小豆島町と

も様式を統一いたしまして、緊急搬送時の必要な情報を活用していただけるよう消防とも連携して運用しているところでございます。

高齢者の方々は、日常生活が送れていても、急に体調が悪くなどして支援が必要となる場合もあり得ることから、全国的に、先ほど言いました緊急時安心キット、あるいは緊急医療情報キットなどの名称で、普及が図られております。介護保険等の支援を受けられている方につきましては、要支援者名簿に、家族等の連絡先が登録されておりますが、当然のことながら、高齢者世帯の全てではございません。したがって、これまでも、高齢者ご本人や家族の方はもちろん、自治会や民生児童委員などのご協力もいただきながら、やすらぎ手帳の配布、作成支援などを行っているところでございますが、必要とする方々の手元に行き届くよう、さらなる普及のため、しっかりと周知・啓発してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

私、小豆島町の方にお伺いしてたんですけど、連携してたんですね、すいません。そのあたりの認識が欠落しており申し訳ないと思います。たいへんありがたいと思います。

近々に、私自身がちょっとご近所の方で、そう高齢じゃない方で、情報がなくて困ったという経験しまして、これがもう、明日、私も還暦を過ぎましたので、自分事だなと思って身につまされました。なので、もう 75 以上とかっていうのではなくて、高齢っていうのではなく障害のある方とか、広報で、申告制でもいいので、ちょっと不安がある方とかっていうのをちょっと周知するっていうのもありかなあと思うんですが、そのあたりどうお考えでしょうか。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

先ほど対象者の方なんですが、私どもの対象者につきましては、希望者の方、どなたでも、こちらの手帳のほう配布できますので、先ほど言いました広報の関係につきましては、また啓発のほうしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

たいへん前向きなお答えでありありがたいと思います。ぜひ、その旨を、前のほうに進んでいつていただきたいと思います。

では、3つ目の質問いきます。

最終処分場の進捗状況をお伺いします。何度も、私自身も、ほかの議員の方もお伺いしていますが、ちょっとどうしても聞きたいので、今委員会で審議されておりますが、最終処分場の進捗状況をお伺いします。

1つ目、現在4カ所の候補地選定までは聞いていますが、その先、どこまで絞り込まれましたか。

全部ちょっと聞きますので、お一つお一つ、ちょっとお答えしていただいたらと思います。

2つ目、綾川への運び出しの期限は5年と聞いておりましたが、現状では、延長は必至です。最終処分場の決定はいつ頃になり、現実的に稼働できるのはいつ頃の見込みでしょうか。

そして、何が問題で、場所選定の決定が長引いているのか。豊島の産廃問題を経験した土庄町が、いつまでも他町へのごみを搬出することはすべきではありません。費用がかからないということの、お金の問題ではないと思います。

では、3つの質問よろしくお願いします。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

昨年11月30日に開催されました教育民生委員会におきまして、候補地を4カ所に絞った旨をご報告させていただきました。その後の進捗状況につきましては、現在、各候補地につきましては、登記簿の確認、各種規制の再調査などに着手するとともに、進入路の拡幅や排水路の整備など、必要になると思われる事項の検討などを行っている段階で、まだ4カ所の中から、さらに絞り込むまでには至っておりません。今後の調査および検討状況等に応じまして、適切に議会へ報告してまいりたいと考えております。

次に、綾川町への不燃物の運び出しにつきましては、現在のところ、令和7年度までのご理解をいただいているところであります。

一方で、最終処分場の決定には、鈴木議員のおっしゃるとおり、どんなに急いでも、まだ相応の期間を要すると思われることから、綾川町への運び出しの延長につきましても、視野に入れておく必要があると考えております。綾川町へは、毎年、あいさつに出向いております。今年度も、今年の1月に、町長が綾川町の前田町長と面談いたしました。その際、本町の状況につきまして、ご説明申し上げる必要に応じて、今後のことについて協議をしていくこととしております。

最後に、最終処分場の決定が長引く要因としましては、この施設が大規模な

施設であることと、迷惑施設であることに起因する面が大きいと思われます。大規模施設であるがゆえに、土地の確保や安全性を担保する上での適地選定のハードルは高くならざるを得ず、迷惑施設であるがゆえの地元の理解は不可欠であります。いつまでも他町に搬出すべきではないとのご意見は重く受け止めつつ、課題を1つずつ解決しながら、めどを立てていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

現場の方がたいへん苦勞してるのは私も知ってますので、なかなか心苦しいんですけども、2 番目の質問は、現実的には今はもう答えられないと、決定はいつ頃になるか、稼働できるような見込みは、今のところまだ言えないというお答えということでしょうか。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

鈴木議員の再質問にお答えいたします。

明確な時期につきましては、候補地を絞り切れておりませんので、明確にはご回答ができないという状況でございます。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

これはもう長く、懸案事項で、たいへん重要で難解な事業だということを認識しておりますが、善処していただきたいと言うしかないので、よろしく願います。

それに引き続きなんですが、ごみの減量化について、徳島県上勝町、鹿児島県大崎町のように、全てのごみをできる限り分別、資源化し、ごみゼロを目指すだと思っておりますし、ほかの上記 2 つの町が実現していますので、実現可能とも思っています。面倒で手間ですが、時間をかけ、繰り返し訴え、周知することが大事。プラスチックごみに関しても、分別リサイクルとして、国も動き出しました。レジ袋が有料になり、海岸清掃などをしますと、海岸に漂着するレジ袋のごみは、驚くほど少なくなっています。

以前にも質問しましたが、ごみ問題に関心の高い移住者のグループも増えています。レジ袋を町指定のごみ袋とコラボするとか、拡大生産者責任で事業者側が過剰包装を見直す要望などの検討を町と一緒に、私も改めて促したいですが、見解をお伺いします。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

お話がありました徳島県上勝町におきましては、13 種類 45 分別を行い、リサイクル率を 80%にまで高めていると聞いております。また、鹿児島県大崎町では、27 種類に分別しているとのことであります。土庄町では、大きく分けまして、ビン類、鉄、アルミ缶類、紙類、ペットボトル、発泡スチロール等を分別、回収しております。近隣市町の例としまして、高松市では、それらに加え、衣類、プラスチック類の回収を行っているところであります。土庄町におきましても、できるものから分別の種類を増やしていきたいと思っており、まずは、衣類につきまして、小豆島町とも連携して、5 年度中に資源ごみとしての回収を行うよう取り組んでいきたいと考えております。

なお、プラスチック類の分別、資源ごみ化は、まだ島内での再処理体制が整っておらず、今後の課題となりますが、鋭意検討してまいりたいと考えております。

また、鈴木議員ご指摘のとおり、坂出市がコープ香川と連携して、レジ袋を市指定のごみ袋として販売する取り組みを行っております。こうしたアイデアに富んだ取り組み等についての情報収集にも努め、実効性についても研究してまいりたいと思っております。

なお、土庄町における不燃ごみの排出量は、1 月末現在での昨年度との比較で、約 14%減少をしております。町民の皆さまには、ごみの分別等へのご理解、ご協力を着実に深めていただき、この場を借りまして、厚く御礼申し上げますとともに、引き続き啓発活動に取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

4 番 鈴木美香君。

○4 番（鈴木美香君）

私も、衣類が次の最大課題だなと思っていましたので、これに取り組んでいただけるというのは、たいへんありがたいと思っています。その次は、プラスチックということで、徐々に減していただいて、ごみを捨てることが、もう綾川に持って行かなくてもいいようになって、環境立国土庄町という銘打てるように、お互い頑張っていきたいと思えます。ありがとうございます。終わります。